

背景・目的

委託先:芳華園(造園・環境調査業者)

本町の外来種対策は、「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」を活用し、外来種駆除を観光協会へ委託(観光ガイドの収入維持支援)して実施することで進展した。(R2~4年度) 外来種に関する知識の普及、人材育成など土台作りができたため、環境省の交付金を活用し、本町に生息する特定外来生物の早期根絶を目指し、希少野生植物及び景観を保全することを目的として事業を継続している。

- ・**オオフサモ**→環境省指導の下、町内で試行的に取り組んだ箇所で過去に地点根絶を達成できた事例あり。他の地点にも拡充して本町からの根絶を目指す。
 - ・**ツルヒヨドリ**→島内14地点中7地点が本町にある。小規模地5地点での根絶と大規模地2地点での低密度化を目指す。
 - ・**ボタンウキクサ**→現在2地点。継続的な防除活動の効果により低密度化が計られており、更なる水路環境の向上及び生物回復の為、根絶を目指す。
 - ・**オオキンケイギク**→町内9地点。過去に町内で植栽事例あり。住民への周知を徹底し、種子を付ける前の継続した防除によって、埋没種子を減らし、根絶を目指す。
- 防除、啓発に際しては地域住民を巻き込み、防除後のモニタリングを継続することで早期発見・初期防除を図りたい。

今年度実績

事業①事業計画の策定

- ・本事業の目的及び目標の確認
- ・防除作業やモニタリングのスケジュール及び防除方法の検討
- ・新しい防除方法の検討
- ・日報様式の確認
- ・上記を専門家及び町担当と事前に共有

事業②駆除及びモニタリング

- ・駆除人数…延べ125名
 - ・モニタリング…延べ32名
 - ・最新の生育状況エリアマップ、地点状況表作成
 - ・住民への啓発リーフレット全世帯配布
- ※各地点における今後の効果的な防除及びモニタリング結果の集約



課題と今後の展望

本町の特定外来生物4種は、低密度化と根絶を目指す種(①)と、モニタリング期に入っている種(②)の2パターン。

- ①ツルヒヨドリ、ボタンウキクサ、オオキンケイギク→『早期発見・初期防除』が重要であり、駆除の時期や方法なども今後検討しながら低密度化を図る。
- ②オオフサモ→『継続性』が必要不可欠であり、今後の定期的なモニタリングが重要。

本交付金を活用して事業に取り組む場合、生長が速い気温が上がる時期に駆除することによって駆除効果をより高められるため、可能な限り早期の事業着手が重要。また、駆除作業を行う継続的な人材育成・確保及び高所で駆除が困難な箇所への対応が今後必要。年々状況が変わる自然環境に対応しつつ、本町の特定外来生物の根絶を継続的意識を持ちながら目指していきたい。